

平成 30 年度
美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

平成 30 年度

美術館教育普及報告書

目次

- 3 目次
- 4 はじめに
- 5 本年度の取組み
- 6 キュレータートーク
- 7 アーティスト・ギャラリートーク
- 8 ミュージアムツアー
- 9 学芸員講座
- 10 教職員講座
- 11 教員実技研修会① 「たのしい図画の授業」
- 12 教員実技研修会② 「画材の基礎知識」
- 13 招聘事業「美術館へ行こう」
- 14 学校支援プログラム
- 15 児童・生徒の声（事前・事後）
- 16 教師の声（アンケート）
- 17 鑑賞ボランティア活動報告
- 18 鑑賞ボランティア活動報告 ボランティアの声（写真）
- 19 学芸員実習
- 20 アートコンクール
- 21 アートコンクール（審査講評）
- 22 ワークシート
- 23 中学校鑑賞プログラム
- 24 OKINAWA アートワークショップ 2018
- 25 OKINAWA アートワークショップ 2018（写真）
- 26 夏休みこどもフェスタ
- 27 夏休みこどもフェスタ（写真）
- 28 移動展 in 伊平屋島
- 29 移動展アウトリーチ
- 30 おきみゆーシネマラボ
- 31 「私たちの学校へ沖縄の名画を贈ろう！キャンペーン」への協力
- 32 展覧会関連催事 大和コレクションⅧ
- 33 展覧会関連催事 儀間比呂志の世界①
- 34 展覧会関連催事 儀間比呂志の世界②
- 35 展覧会関連催事 伊志嶺隆と平敷兼七展
- 36 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ①
- 37 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ②
- 38 展覧会関連催事 吉増剛造展①
- 39 展覧会関連催事 吉増剛造展②
- 40 展覧会関連催事 宮城健盛展
- 41 実施統計①
- 42 実施統計②
- 43 実施統計③
- 44 実施統計④
- 45 実施統計⑤
- 46 実施統計⑥
- 47 さいごに
- 48 奥付

[はじめに]

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は、昨年度おかげさまで開館 11 年目を迎えることが出来ました。入館者数は 520 万人を超えております。これも県民の皆様をはじめ、県内外の多くの皆様の当館に対する期待の表れだと考えており、併せて、我々に課された使命の大きさを改めて感じているところであります。

美術館の主な活動内容には 5 つの柱があります。「収集」・「保存」・「調査研究」・「展示公開」そして、「教育普及」があげられます。教育普及活動は、美術館が文化や知識の発信地として、誰もが美術や芸術に対する「美意識」を共有することができる場を創出することで、より多くの皆様に美術に親しみ、美術を楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、平成 30 年度に実施した美術館の企画・コレクション展開連催事、学校団体鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアー、移動展などの幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。

本年度新しく取り組んだ OKINAWA アートワークショップは、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えています。

本報告書が、皆様にとって県立博物館・美術館を活用する契機となるとともに教育普及活動に対する理解の一助になれば幸いです。

平成 31 年 3 月 沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を実施するとともに、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」を実施しました。また、小学校・中学校・高校・大学と美術館の連携授業としても、キャリア教育、鑑賞プログラムを取り入れた対応が出来ました。特に特別支援学校と連携した鑑賞プログラムには大きな成果がありました。そして中学生・高校生向けにニシムイ鑑賞プログラムを作成し、出前授業に出向くことができ、館内には鑑賞サポートワークシートの設置も復活することが出来ました。また、今年度の新しいプログラムとして地元の素材・題材にこだわった、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWA アートワークショップ」を開催しました。新たな取組みを行うことで様々な個人・団体との連携を図ることができ、新規来館者の開拓に繋がったと考えられます。

普及の一環としてさらに、沖縄明治乳業が行う「私たちの学校に世界の名画・沖縄の名画を贈ろう！」キャンペーンに当館所蔵作品の画像を提供する形で協力し、多数の学校に沖縄の名画を贈ることが出来ましたが、今年度で最後の企画となりました。

本年度の常設展では「大和コレクションⅧ」、追悼「儀間比呂志の世界」展、「伊志嶺隆と平敷兼七」展を開催し、たくさんの関連付帯催事を通して作品理解が深まる情報を提供しました。

企画展では「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」、「宮城健盛展」を開催し、県内・国内外からも多くの来館者を迎えることが出来ました。

教育普及担当 富原圭子

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また展覧会を開催するにあたり進めてきた調査・研究の内容を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展覧会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後に向けての情報収集となる。



●豊見山愛学芸員



●玉那覇英人学芸員

【学芸員の声】

本年度は、企画ギャラリーで「吉増剛造展」と「宮城健盛展」を開催した。宮城健盛展は、戦後から晩年にかけての宮城作品を一堂に展示したほか、所属していた美術団体の作品なども紹介し、宮城の教育者としての顔ものぞかせた回顧展であった。キュレータートークとしては開会式後に担当学芸員が展示に沿って、宮城の画風の変遷や作品の背景について解説を行った。また、学芸員単独の催事ではなく、宮城健盛展に出展した作家と対話形式でギャラリートークを開催し、作品の理解を深める試みを行った。

キュレータートークは、「大和コレクションⅧ」、「儀間比呂志の世界」、「伊志嶺隆と平敷兼七」、「沖縄美術の流れ」にて各展示担当学芸員が実施した。キュレータートークは学芸員講座と連動させる学芸員もあり、各学芸員が担当する常設の展覧会について、歴史的背景を交えた解説に加え、素材や技法、個々の作品の修復等について説明する内容となっている。

作品が作られた背景に加え、各学芸員の研究を踏まえた解説を行った。さらに聴衆が学生であるかどうかなどによって、適宜内容を修正しながら、幅広い鑑賞者に興味を持ってもらえるよう工夫をしている。

(梶原正史)



●梶原正史学芸員

アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク・ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家に対して、新たな気付きや理解がより深まることに繋がっていく。



●吉増剛造氏



●稲嶺成祚氏

【作家の言葉】

私の作品は、人体を主に制作しているが、造形の視点で内と外との関係を捨象して表わす場合もある。また、自然からの印象を形象化することもある。概ねこの3つの捉え方で制作しているように思う。

人間の営みと風土との関係で造形を考え、彫刻としての造形志向を表現することを追究している。イメージの広がりやフォルムの探求によって、どのように表現するかを考えるのが日課になっている。何を造るかでモチーフ探しに苦慮している。●（西村貞雄）2018.11.17

吉増剛造と沖縄との関わりは深く、若い頃から幾度となく沖縄を訪れ、さまざまな人々や土地、文化との交感を創作活動の源泉の一つとしてきた。長い年月を重ねて沖縄に足を運ぶ中で、沖縄は、活動の領域のみならず、創作そのものにも大きな影響を与えている。吉増剛造の詩集を軸とし、半世紀以上におよぶ創作を辿るだけでなく、その活動が影響を受けた詩人、小説家、写真家、美術家、研究者等の作品、資料を開示することを一つのテーマとした。沖縄で展覧されることは、彼が幾十年に渡り沖縄との交感を続けてきた一つの結実であり、画期の意義を感じている。

●企画展「吉増剛造展」（企画者－篠原誠司／足利市立美術館学芸員）



●西村貞雄氏



●篠原誠司氏

ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。教育普及担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室における実際の作業に関する説明は、参加者の多くの関心を引いている。夏休みの時期となる8月には、親子を対象としたツアーを実施。

- ① 実施：年5回 土曜日 10：30～12：00
- ② 内容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する
- ③ 定員：12人



●10分程度の座学



●コレクションギャラリー

—作品を伝えていくために—

亜熱帯に属する沖縄では、気候風土など地域の特性に合わせて美術品の保存を考えなくてははいけない。しかし、沖縄での美術品の保存に悪影響をもたらしたのは自然環境だけではない。

沖縄は、第二次世界大戦で地上戦を経験し、それまでの作品の大半を失った。戦前の美術品は、わずかに画家が疎開先で手元においた作品が残るだけである。

戦後は、地理的な問題にアメリカ占領下であることも加わって、沖縄の作家たちは東京へ作品を出品する際、キャンバス布を木枠から外し巻いて輸送し、搬入先で張り直すという作業をしていたらしい。このような作業が繰り返し行われたため、作品のダメージが大きなものになった。

美術品の保存修復に関する研究は、技術的な内容に留まらず、このような沖縄の美術品が負わされた事実も保存していくことが重要である。(保存修復の現場より)



●工作室



●修復室

美術館 学芸員講座

学芸員とは、美術館や博物館において展示する作品・資料のお世話をする仕事である。英語では学芸員を『キュレーター』と呼び、語源は『キュア（世話・配慮）』からきている。

学芸員室や研究室と呼ばれる場所を活動の拠点として、作品・資料の収集・保管・調査・研究などを行ったり、定期的に展覧会の企画・開催などを行うことが主な業務になる。文化的な作品・資料の持つ本当の価値を、美術館や博物館といった場所で、たくさんの人々に伝えていくことが最大の使命だと言えるだろう。

回	期 日	曜日	講座名	担当
1	6月2日	土	「美術品の保存について」ー保存修復の現場からー	梶原正史
2	7月21日	土	「儀間比呂志の世界」について	豊見山愛
3	11月17日	土	「沖縄における現代彫刻の変遷」	玉那覇英人
4	3月9日	土	「伊志嶺隆と平敷兼七」について	亀海史明



●梶原正史学芸員



●亀海史明学芸員

【学芸員の声】

なかなか美術館の外からは気付かれにくいですが、学芸員は日々、調査研究にいそしんでいる。

私が専門にする「沖縄における現代彫刻」については、これまで調査研究が十分になされてこなかったといえる。そこで、今年度の学芸員講座では、彫刻家である西村貞雄氏をお招きし、経験談を伺いながら講座を進めることとした。それにより、より深まりのある講座となった。また、観客からのご質問や、県内で活躍する作家の方のお話を伺うことができた。今回のように、学芸員講座で学芸員の調査研究成果を発表することは、美術館が外に開かれるよい機会であろう。また、学芸員にとっては多くの情報やヒントを得ることができる貴重な場でもある。(玉那覇英人)



●玉那覇英人学芸員

教職員講座

今年度より、沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教師、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、美術館内のアトリエにおいて図画工作・美術に関する研修を定期的で開催した。

図工・美術の授業における指導のあり方や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的とした。

●沖縄県造形教育連盟中学部会Ⅰ

【日 時】 6月16日(土) 14:00~15:30 (受付13:30~)

【会 場】 こどもアトリエ、県民アトリエ 【参加者】 県内美術教諭(15名)

- 【内 容】 ①「中学美術科授業づくり～導入時のヒント～」(富原圭子/沖縄県立博物館・美術館学芸員)
 ②美術館とつながる鑑賞の授業(富原圭子/沖縄県立博物館・美術館学芸員)
 ③新学習指導要領移行期の中学美術科授業づくり(上原進/県立総合教育センター/研究主事)

●沖縄県造形教育連盟中学部会Ⅱ

【日 時】 12月22日(土) 14:00~15:30 (受付13:30~)

【会 場】 こどもアトリエ、県民アトリエ 【参加者】 県内美術教諭(15名)

- 【内 容】 ①新学習指導要領移行期のポイント(上原進/県立総合教育センター/研究主事)
 ②県立美術館学校支援プログラム「ニシムイ」(富原圭子/沖縄県立博物館・美術館学芸員)
 ③学校行事とつなぐ授業の作り方(田仲浩美/国頭村立国頭中学校/教頭)



【参加者の声】

- ◎たいへん勉強になりました。美術科は研修の機会が少ないので是非今後も続けて欲しい。2時間という短い時間も受けやすいです。夏休みなど多く実施して欲しいです。
- ◎とても良かった。多くの活動を丁寧に紹介してくれて理解しやすかったです。資料もたくさん準備してくれて大変参考になりました。日程等が合えば是非今後も参加したいです。
- ◎県内の中学校の美術の先生方には是非聞いていただきたいです。とても良い内容でした。今、「ニシムイ」に目を向けることが国際理解(他文化理解)につながることを実感していきたい。
- ◎評価や授業の取り組み、沖縄の美術を知ることができてとても良いプログラムでした。沖縄に住みながら沖縄の美術について不勉強で、なかなか生徒に教えることが出来ませんでした。「ニシムイ」を通して学びたいと思います。

教員実技研修会① 「たのしい図画の授業」

これまでの造形活動、図画工作、美術の授業を振り返り、「こどもに表現の自由をかえそう」との合い言葉を掲げ、子どもたちの明朗で創造性豊かな表現を目指して先生方に研修の機会をもうけた。今年度は、ぺんてる株式会社と協賛し、画材開発メーカーの大塚義孝氏の講話や実技講習を実施することができた。

小学校校長 殿
平成30年 6月24日
沖縄県造形教育連盟 公印
会長 池原 盛浩 省格

ご案内
2018 造形教育セミナー

たのしい図画の授業 実技研修会 700

この夏、図画工作の授業に活かせる実技研修会を行います。図画工作の基本技能である、はさみ・のり・粘土を使った実技研修を造形的な会話をしながら研修をしましょう。多くの先生方の参加申し込みをお待ちしております。

- 日時 平成30年8月9日(木) 受付9:30 実技 10:00~12:00
- 会場 沖縄県立沖縄博物館美術館 美術館子どもアトリエ
- 対象 小学校教諭 他 ※定員20名程度
- 目的 楽しい図画工作の授業をめざし指導技術の向上を図る。
- 内容 図画工作の基本の実技講習。
- 日程 受付 9:30~



10:00 全体会（開会式）建言説明		
研修内容		○持参する物
きる編	はさみの使い方の実技・指導上の留意事項	○はさみ ○カッターナイフ
はる編	のりやボンド実技・指導上の留意事項	○のり ○木工ボンド
ねる編	市販粘土の特性と実技・指導上の留意事項	
12:30~ 閉会式（各部会で片付け、情報交換、閉会）		

- 参加費 500円（材料費を含みます。）
- 持参物 材料・道具は可能な限り持参お願いします。
- 申込期限 8月3日（金）
- 留意点 ※場所等の都合で、定員に達し次第締め切らせていただきます。（20名程度）
- 主催 沖縄県造形教育連盟
- 協賛 ペンてる株式会社 日本文教出版株式会社 沖縄県学校用品株式会社



【参加者の声】

- ◎実技研修で実際に体験できて良かったです。1年生~6年生までの発達段階に応じた指導、教科書の使い方を知っているようで知らなかった部分を丁寧に教わったので本当に勉強になりました。
- ◎すごく良かった。身近にある材料であったり、造形活動の基礎基本を学びました。ハサミやカッター、粘土遊びにしても、ついつい自分勝手に行っていることがあって改めて道具の正しい使い方を知りました。何よりも図画工作の教科書の見方、使い方は目からウロコでした。
- ◎図工を楽しく学習するためには、『準備』がしっかり出来ていないとダメだと感じました。教科書の中を子どもたちと一緒に確認していく、その単元で身につけるべき能力を教師がしっかりおさえていく必要性を改めて感じています。
- ◎子どもの実態に沿った内容・説明だったので、子どもたちをイメージしながら取り組むことができ、すぐ授業実践に活かせると思います。あっという間に時間が過ぎてしまい、充実した研修でした。

教員実技研修会② 「画材の基礎知識」

平成30年6月24日

幼稚園・保育園・子ども園長
小学校長 殿

沖縄県造形教育連盟 公印
会長 池原 盛浩 省略

ご案内

2018 造形教育セミナー特別講習会

画材の基礎知識

この夏、くれよん・絵具を活かせる研修会を行います。クレヨン・クレパス・絵具等の画材について、開発メーカーの講話や実技講習です。多くの先生方の参加申し込みをお待ちしております。

- 日時 平成30年8月21日(火)
幼稚園・保育園・子ども部（定員25名程度）9：30受付 10：00～12：00
小学部（定員25名程度）13：30受付 14：00～16：00
- 会場 沖縄県立博物館・美術館 子どもアトリエ
- 対象 幼稚園・保育園・こども園教諭、小学校教諭 他
- 目的 画材の基礎知識（クレヨン・クレパス・絵具）
- 講師 大塚義孝（べんてる）
- 日程

投 種	時 間	内 容
幼稚園 保育園 子ども部	09：30 10：00～12：00	受付 画材の基礎知識 （クレヨン・パス・ゆびえのぐ等の特性および実技講習）
小学部	13：30 14：00～16：00	受付 画材の基礎知識 （クレヨン・パス・えのぐ等の特性および実技講習）

- 参加費 500円
- 申込期限 8月10日（金）
- 留意点 ※場所等の都合で、定員に達し次第締め切らせていただきます。（各部25名限定）
- 主催 沖縄県造形教育連盟
- 協賛 べんてる株式会社 日本文教出版株式会社



【参加者の声】

- ◎なかなか画材の「特徴」などについて学ぶことができなかったので、大変勉強になりました。今まで「クレヨン」と思っていたのが「クレパス」ということを知り驚きです。普段の授業で使わない画材も使えたので、ツールを増やすことが出来ました。
- ◎とても充実した2時間半でした。クレパスを利用した図工の取り組み、一人遊びや集団遊びを通して子どもたちに学んで欲しいこと、身につけて欲しいことなど、考えさせられました。ぜひ今回のアイデアを授業で活かせることが出来るよう持ち帰りしたいと思います。
- ◎すごく楽しかったです。初めて体験するゆび絵の具は、とても刺激的でした。気持ち悪いが気持ちいいという子どもの気持ちが伝わるようでした。また、皆で描き上げた夏をテーマにした絵は、絵の苦手な私にとって最高の出来映えとなり大満足でした。
- ◎学校支援プログラムに初めて参加しました。内容がとても充実していて大変参考になりました。体験できることはとてもいいことです。教員向け、人数もちょうどいいと思います。
- ◎実践にすぐ活かせる内容でとても勉強になりました。体験しながら児童の気持ちになって受けることが出来ました。作品が出来た時の喜びや感動を教室でも子どもたちと共有したいと思いました。

バス招聘事業「美術館へ行こう」

平成24年度から、スタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」も今年で7年目を迎えた。今年度は本島内全域の小中学校に対して公募を行った。そして博物館との連携も図り博物館常設展示室の見学もプログラムに導入した。9月から1月にかけて11校（517人）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞を楽しんだ。今年度は特別支援学校との連携を強化することが出来た。当日、児童生徒の間では対話による鑑賞を通して多くの気付きと感動が生まれた。児童にとってこの体験が美術館鑑賞のスタートとなり、今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけとなりうると推察される。

	学校招聘事業	下見（事前学習）	来館日	参加(人)
1	西原町立西原東小学校	8月10日（9月10日）	9月27日	76
2	県立島尻特別支援学校	8月8日（9月25日）	10月10日	20
3	八重瀬町立新城小学校	8月22日（10月10日）	10月16日	55
4	南城市立百名小学校	8月3日（10月1日）	10月18日	63
5	西原町立西原中学校	なし（11月1日）	11月14日	9
6	県立森川特別支援学校	8月28日（12月5日）	12月18日	26
7	本部町立瀬底小学校	8月8日（12月10日）	12月19日	19
8	うるま市立平敷屋小学校	8月2日（12月10日）	12月20日	40
9	うるま市立宮森小学校	なし（12月13日）	12月21日	58
10	国頭村立国頭中学校	12月12日（1月10日）	1月24日	52
11	読谷村立古堅小学校	8月21日（9月26日）	2月15日	99



●出前授業レクチャー



●鑑賞ツアーの様子



県立美術館学校支援プログラム

学校支援プログラム内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：〔美術館で〕
2. 美術館出前講座（レクチャー＋チームティーチング）：〔学校へ〕
3. 教育普及キット貸し出し：〔学校へ〕 沖縄遊具体験：〔美術館で〕
4. 博美連携夏休み教員向け講座：〔美術館で〕
5. 小・中職場体験や研究会の研修受入：〔美術館で〕



1. 鑑賞支援プログラム

(1) 「美術館へ行こう」（学校招待事業）H30年度は全域区が対象

- 児童・生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品をもとに鑑賞を行う。（バス2台分補助）
- 学芸員が事前に鑑賞の授業レクチャー・チームティーチングの指導を行う。（学校）
- 当日は、鑑賞ボランティアさんによる「対話を通じた鑑賞」を行う。

(2) 「学校団体鑑賞プログラム」

- 学校・学級等で申し込んだ団体に鑑賞ボランティアによる「対話鑑賞」又は鑑賞解説を行う。
- 社会科・総合的学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料を当時を知る手がかりの素材として活用する。（学芸員の出前授業レクチャーと来館しての鑑賞）

※学校の要望等に応えながら学校と美術館で授業を作り上げていきましょう。



鑑賞プログラムの細かい流れについては、学校側との調整になります。

※申込は、当館のホームページよりお願いします。

<http://www.museums.pref.okinawa.jp>

※詳しいお問い合わせは
 098-851-5402（美術館直通）
 098-941-3730（FAX）
tomihark@pref.okinawa.lg.jp
 主任学芸員 富原 圭子

2. 美術館出前講座（授業レクチャー）

- 作品を複製したパネル（ティーチャーズ・キット）での鑑賞の授業のレクチャーや、授業の支援を行う。

3. 教育普及キット貸し出し

- 作品を複製したパネル（ティーチャーズ・キット）やアートカード（美術館収蔵作品をもとに60点カードにしたもの）を貸し出し、学校での授業に役立てる。 ※借用申請して授業で活用して下さい→TEL



4. 博美連携教員向け講座

- 美術館連携の授業の在り方や博物館・美術館の活用の仕方等の学習会を行い、情報提供を行う。

5. 小・中職場体験や研究会の研修の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の教育普及プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できます。

学校招聘事業「美術館へ行こう」事後アンケートまとめ【教師用】

回答 40名

1. 今回の学習を終えて、学習のねらいは（目標）は達成できましたか。

- ①達成できた（37名） ②どちらともいえない（2名）

2. 当日の美術館側の対応について（ご意見・ご要望など）

- ◆ ①大変よかった（32名） ②良かった（8名）

事前の打ち合わせで児童の実態に応じた計画と一緒に考えることができました。当日もボランティアさんとの調整や時間配分など、細かいところまでお気遣いいただき感謝です。小グループに対して1人のボランティアさんが付いてくれたことで内容の濃い鑑賞ができました。説明も丁寧にしてくださり、生徒も良く話を聞いていました。

3. 鑑賞を通して、子ども達の反応はいかがでしたか

- ①大変よかった（19名） ②良かった（18名） ③普通（3名）

◆頭に浮かんだ言葉を伝えたり、じっと視線を送ったりして、子どもたちが自分なりに鑑賞を楽しんでいました。色々なものを鑑賞して感じる体験は大切だと感じました。また事前学習で見た絵を実際の大きさと見ることができて喜んでいました。

◆子どもたちがそれぞれ自分の考えをしっかりと持つことができましたと思います。まだまだ普段の生活では自分の考えを皆の前で表現するのは難しいところがありますが、「自分の考え」が認められ、また様々な考え方を認めることができるようになるきっかけになったと思います。

【課題】

◆学校での事前学習では積極的に答えていましたが、館では緊張したようであまり発言できていませんでした。

4. 鑑賞をサポートしたボランティア員の対応はいかがでしたか

- ①大変よかった（24名） ②良かった（12名） ③普通（4名）

◆生徒の実態を理解し、その子なりの絵の見方や楽しみ方を見守ってくれる、また障害の重い生徒が何を好んで見ているのか伝えてくれるなど、大変良かったです。

◆車イスの生徒のためにルートを示してくれました。大変助かりました。

◆子どもたちの考えを引き出し認めてもらったので、子どもたちは満足しているようでした。このような姿勢が、子どもの自己肯定感を育て、自身を持つことに繋がっていくと感じました。

5. その他、ご質問やご感想がありましたら、ご記入下さい

◆事前学習の細やかなレクチャーや資料の提示等のおかげで、初めての私たち教師もイメージが持ちやすかったです。特別支援学校の小学部の子どもたちにとって絵の鑑賞は難しいと思っていましたが、やってみると色々な面白い反応があり、またやってみたくて思いました。

◆子どもたちにとっても担当した教師にとっても多くの学びがありました。何より美しい物に触れ、心動かされる時間・機会をいただいたことが幸いです。沖縄の宝物がいっぱいあるねと語り合っています。鑑賞だけでなくキャリア教育とも連動させて、これからも活用していきたいと思えます。お世話になりました。ありがとうございました。

鑑賞ボランティア活動報告

今年度の美術館のボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと美術関連書籍を整理する資料整理ボランティアの2つのグループに分かれて活動した。それぞれが特技を活かし美術館の活動を盛り上げている。

宮城章子（美術館ガイドボランティア）

私にとって、あこがれの遠い存在が美術館という場所でした。そこでボランティア活動に挑戦してみたいと思い、不安な気持ちの中にもわくわくする思いもありました。私の大きな力と支えになったのが、養成講座を受講した事でした。内容のすばらしさはもちろんですが、スタッフの方々の丁寧な対応と資料の充実、また先輩ボランティアとの交流、その中で行われた実習では先輩ボランティアの鑑賞方法を何回か見学することによって、実践へ向けての励みになりました。

9月、鑑賞ボランティア学校対応1回目、緊張と不安の私に先輩ボランティアの方が「作品に向かい合う子ども達に寄り添う気持ちで」と声をかけられました。緊張がほぐれ、子ども達と一緒に自分自身も発見する楽しさを学ぶことができました。

2年目に入りますが、子ども達と感じた作品に対する感動や新鮮な感覚を大切に、ボランティアの目的である、来館者と美術館を結ぶ架け橋になれるように、今後もこの活動に携わっていけたらと願います。

玉城直子（美術館ガイドボランティア）

退職後は、新しいことにチャレンジしたいと思い選んだのが美術館ボランティアだった。芸術に関する知識もなく、ゼロからのスタートは不安でいっぱいだった。それでも一歩踏み出すことから得られる出会いや体験に期待で胸を膨らませ、初回のボランティア講座に参加した。全6回のボランティア養成講座の受講と、先輩ボランティアのファシリテーターの様子を拝見することから学んだ知識を実践に活かすよう心掛けた。しかし、各学校の来館目的の達成には力量不足を痛感した。学芸員や先輩ボランティアの温かい励ましや助言は、まるで魔法の言葉のようで頑張るエネルギーになった。

美術鑑賞の際、子どもたちから湧き出てくる言葉、目の輝きや身体の動きから、アートの素晴らしさを実感できた新鮮で貴重な体験であった。また、子どもたちから受け取ったお礼の手紙がやりがいを感じさせてくれた。養成講座の企画や運営に関わった学芸員、支援してくれた先輩ボランティアに感謝、ありがとうございました。



鑑賞ボランティア活動報告 ボランティアの声

鑑賞ボランティア② 振り返り

●子どもたちに戦争がテーマの作品はどうかと思ったが、先ず見せてみて、思った以上に率直な感じで捉えていて良かった。今回は前半に4年生、後半に3年生の対応をしたが、ストーリー性のある話をできる生徒には驚いた。少し突っ込みを入れると反応良く答えるのが楽しかった。

10月18日(木) 南城市立百名小学校(63名)

●子どもたちが発する言葉に対して、必ず何か返す事が特に特別支援では必要だと感じた。また、車イスで見学する際の角度はどの角度が見易いのか？作品の前で立ち止まれば正面から見てもらえるが、話をしながら進む場合、押している人の感覚に任せる事になるので必ず正面から作品を見られない場合がある。子どもたちのお気に入り作品の前で記念撮影をするのがとても良かった。

10月2日(火) 泡瀬特別支援学校(6名)

●子どもたちのエネルギーは凄いなと思いました。皆それぞれ自分の興味のあるものを見つけてしっかり自分の想いを固めているようで、傍で観ている側としても色々な想いを巡らせる機会となり楽しく過ごせました。

●子どもたちが好きな絵の前では体で喜びを表現したり、ウルトラマンのポーズをとったり、色や形に反応したり、それぞれの見方があり、一緒にまわっていて楽しい時間を過ごすことができました。

11月21日(水) 西崎特別支援学校 小学部(19名)

●今日は先輩ボランティアのファシリテーションから多くを学ぶことができました。質問をしていくうちにだんだん全員が話してくれました。絵画鑑賞を十分に楽しんでいるようでした。子どもたちの発想力も豊かで、自由なトークができました。

1月24日(木) 国頭村立国頭中学校 1年(52名)



学芸員実習

美術館では、開館3年目の2009年から実習受入を行っている。受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の大学（琉球大学、沖縄県立芸術大学）を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れている。定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義にあたっている。今年度は県内の沖縄県立芸術大学の6名を受け入れた。

【美術館学芸員実習カリキュラム】

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第1日	月	開講式、初インテーク、I P M	美術館業務の考え方・博物館施設説明
第2日	火	美術館活動の概要及び施設・設備	常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究
第3日	水	共通課題研究、収集事業概要	資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ
第4日	木	共通課題研究、資料の分類	常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際
第5日	金	共通課題研究、常設展の実際Ⅲ	調査研究概要、企画展の実際Ⅰ
第6日	月	共通課題研究、資料に関する情報処理	立体資料の取扱い実習（彫刻）
第7日	火	共通課題研究、平面資料の取扱（油彩・水彩画）	平面資料の取扱い（版画）
第8日	水	共通課題研究、教育普及Ⅱ	平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ
第9日	木	共通課題研究、作品調査の方法	平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ
第10日	金	共通課題発表、平面資料の実習Ⅴ	実習のまとめ、閉校式

【実習生の声】

- 共通課題を通して、改めて作品を見る側の人のことを意識するようになりました。作品を見るのが難しいと思っている人に対して、作品に歩み寄ることは出来ずとも、作品の周りを整えていくことで、見やすさや見る側の気持ちが変わること、そのために整える役割の大切さを課題制作してみて強く感じました。また、これから自分に出来ることは何か、ということを探していこうと思いました。
- 実際に学芸員の方々がされる仕事を見て、美術品の尊さを再認識することが出来ました。学校での授業で聞く事とは違い、本物がそこにあるという責任感と緊張感は学芸員実習でしか体験出来ない貴重な時間であったと感じます。長い間作る側の目線で見たことは全く世界が違い、自分はまだまだ知識が浅いのだと痛感しました。今回の実習が自分にとって得難い経験になっただけでなく、芸術を学ぶ人間としても前進したと感じています。



● 平面資料の取り扱い



● 共通課題発表

アートコンクール

昨年度より、児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指した。引き続き実施することとし、第2回目のテーマは「宝」。あなたにとっての宝とは…で募集した。沖縄県造形教育連盟と美術館班職員が審査に携わり、535 作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞に選ばれ、11月3日に表彰式を挙行政した。当日は、入賞者のご家族もたくさん列席され、晴れやかな表彰式となった。

展示期間 2018/10/30～11/11

平成 30 年度 沖縄県立博物館・美術館企画 第 2 回アートコンクール 入賞者

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部	
最優秀賞	◎呉屋遥飛 西原町立西原東小 4 年	◎宇治愛乃 那覇市立安岡中 3 年	◎根間笑花 県立那覇高 3 年	◎高橋琉華 県立美咲特別支援 はなさき分校高等部 1 年	
優秀賞	◎仲程一樹 西原町立坂田小 1 年 ◎山城隼翔 糸満市立真壁小 2 年	◎名嘉柚羽 西原町立西原中 2 年 ◎大城百合愛 うるま市立あげな中 3 年	◎砂川真生 県立開邦高 3 年 ◎生盛愛彩 県立開邦高 3 年	◎宮城翔 県立沖縄盲学校中学部 1 年 ◎玉寄七帆 県立西崎特別支援小学部 6 年	
優良賞	◎富里琉百 西原町立西原東小 4 年 ◎神田廉 国頭村立奥間小 1 年 ◎山城陽 糸満市立真壁小 2 年	◎前川寧皇 那覇市立石田中 3 年 ◎西口優希 西原町立西原中 2 年 ◎伊良部朱那 南城市立知念中 2 年	◎喜納そら 県立開邦高 3 年 ◎比嘉鈴音南 県立那覇高 3 年 ◎吉田琴音 県立開邦高 3 年	◎大城梨音 県立沖縄盲学校中学部 1 年 ◎渡眞利玲美 県立森川特別支援中学部 3 年 ◎上原愛 県立西崎特別支援小学部 6 年	
優秀 団体賞	八重瀬町立 新城小学校	西原町立 西原東小学校	西原町立 西原中学校	県立沖縄盲学校	県立西崎 特別支援学校

他*佳作 56名



●審査の様子



●表彰式

アートコンクール

★第2回 アートコンクール 審査講評★

*** 小学校の部(大城直也先生) 豊見城小学校**

自分の身近にある宝に向き合い表現した作品が多くありました。その中でも入賞した作品は、こだわりのある宝と個性溢れる表現方法が合致しており、見るものを引きつけてやまない。

*** 中学校の部(二宮陸生先生) 西原東中学校**

中学生は自分の「宝」として、所有物というよりも、命や大切な存在との「つながり」を主題にしていました。

水彩、コラージュ、切り絵など自分の好きな表現方法を用いてじっくりと描かれた点も良かったです。

*** 高校の部(小松橋人先生) 浦添工業高等学校**

CG 作品は書き込み量よりはテーマ性と構図に寄った作品が目にとまった結果に。手書き作品はオーソドックスなテーマながら、丁寧な作業の積み重ねで見応えのある作品が多かった。

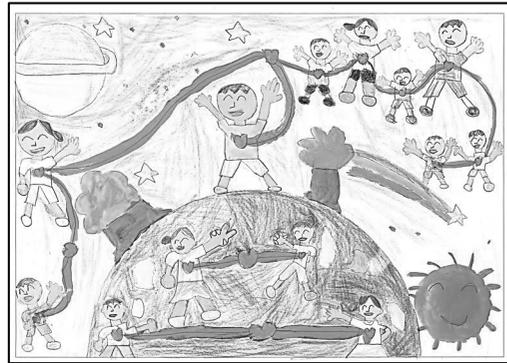
*** 特別支援の部(小橋川啓先生) 島尻特別支援学校**

家族や好きなものなど、描いた人の「大切」や「大好き」が伝わってくる作品がたくさんみられました。また、作ること自体を楽しんでいる様子も伝わってきました。様々な子どもたちの、その人なりの作る姿を頼もしく思います。



根間笑花 県立那覇高等学校 3年

最優秀賞作品



呉屋遥飛 西原町立西原東小学校 4年



高橋琉華 県立美咲特別支援学校
はなさき分校高等部 1年



宇治愛乃 那覇市立安岡中学校 3年

ワークシート

通年で展示を行うコレクションギャラリー3「沖縄美術の流れ」の鑑賞をサポートするワークシートを作成した。中学校鑑賞プログラム「ニシムイ」に連動する内容も加わり、正解を求めない問いかけを行うことにした。各自が自分の視点で作品鑑賞を行う手助けができるように工夫した。館内で鑑賞したワークシートを学校でも活用、評価できるように学校連携鑑賞支援プログラムの一つとして、広報に当たった。

今日見たニシムイの作家にチェックしよう！

- 名渡山愛順
- 山元恵一
- 金城安太郎
- 玉那覇正吉
- 安次嶺金正
- 増部憲
- 安谷屋正義
- 大城晴也
- 末吉安久

ニシムイって何？

戦後、現在の那覇市首里の儀保町に画家達が集まり「ニシムイ美術村」をつくりました。その頃の沖縄は、アメリカの統治下にあり、たくさんのアメリカ人が住んでいました。ニシムイの画家達は、沖縄に住むアメリカ人のために絵を描いたり、教えたりして生活をしていました。アメリカ人を相手に絵を描きながらも、画家として自分の制作に向き合い次々と素晴らしい作品を生み出しました。

美術館からのおねがい マナーを守って楽しく鑑賞しよう

- はしる
- おおごえで はなす
- さわる
- カメラ ざつえい
- たべもの、のしみものちこみ
- ペンではなく エンピツをつかう

【添付作品】

- 宮良鏡子 《水風のうちた》 1994年
- 名渡山愛順 《樹想》 1946年
- カリエス・シロ 《ANTHILEC》 2000年代
- 川平憲造 《Now...②》 1983年
- 内間安理 《Forest Ekyoku》 1980年
- 安次嶺金正 《若い時と少女》 1948年
- 安次嶺長昭 《夜渡船》 1990年
- 程田成祥 《失脚のある家路》 1996年
- 眞喜志志 《Imagine 01~04, Vacation 01》 2003年

主催・発行 沖縄県立博物館・美術館
 開館時間 9:00~18:00(金・土20:00)月曜休館
 問合せ 098-941-8200

観覧料 一般310円/高小210円
 小中(県外)100円/小中(県内)無料

名前 _____
 東館日 年 月 日 ()

【表面】

1章 戦前の沖縄美術-1945

あざやかな魚たち！
 どんな料理ができるかな？

南風原朝光 《魚の静物》 1943年

2章 戦後復興期の美術

トランプが散らばっているね！
 ゲームの途中かな？ 1人かな？

安谷屋正義 《1時5分前》 1951年

3章 復帰からアイデンティティーの希求1972~

人がいっぱいいるね！お祭りかな？
 どんな音、どんな声聞こえる？

眞喜志朝紀 《神々への祈り》 1980年

4章 県外・海外で活躍する
 沖縄のアーティスト1995~

よ〜くみてごらん！
 いろんなものが見えるよ！
 発見しよう！

宮城明 《北北東の風》 2000年

5章 沖縄系移民のアーティスト

たくさんの車たち、いっ
 たいになが起きたの？

アロルド・ヒガ 《火の車》 2006年

ここはいったいどこだろう？
 レンガの壁の奥はどんな世界が
 あるんだろう？

山元恵一 《四方を繋ぎつなぐ時と情むすび》 1951年

この絵の中に入ってみよう！
 どういう気分？どんなにおいが
 するんだろう？

与那覇大智 《光の切り-春の声でうたうために》 1999年

いったいどの海だろう？
 海でいったい何してるの？

川平憲造 《Now...①》 1980年

【中面】

【制作スケジュール】



中学校鑑賞プログラム

中学校鑑賞プログラム モデル校実施

美術館と学校との連携の取り組み（中学校編）

1. ねらい

終戦後の沖縄の美術界を牽引したニシムイ美術村に集った画家達の功績を当時の沖縄の社会の様子も学びながら理解する。→沖縄美術史

2. 学校との連携の取り組み

〈美術館と学校の授業との連携〉

※2018年度 モデル校実施

（伊良波中・豊見城中・長嶺中・琉大附属中）

※2019年度 5月より実施予定

ニシムイ周辺の学校（城北中・松島中・首里中・松城中・・・那覇浦添市内）との連携

※北部・中部・南部の学校又は美術部

- ①学校がバスをチャーター
- ②美術館がバス2台までチャーター

※内容

- ①パワーポイント教材「ニシムイ」の説明
- ②美術館での作品鑑賞
- ③館内ワークシートでまとめ



●琉球大学附属中学校



●豊見城中学校・長嶺中学校



OKINAWA アートワークショップ 2018

OKINAWA アートワークショップ 2018

沖縄県立博物館・美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。

今年度より、「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを実施した。身近な素材でモノづくりが出来る素晴らしさやアイデア、発想力の修得につながるようなワークショップを集結！

今年度も美術館から素敵な作品がたくさん生まれた、参加者それぞれに美術を身近の感じていただいたのではないだろうか。次年度も魅力あるプログラムを提供していきたい。



	講師(県内・県外)	内容
第1回	熊谷雅江・宮平ヒロ子(ウージ染め協同組合)	Cool GreenU-ji ウージ染め色さし体験
第2回	鈴木仁・鈴木美智子(工房うるはし)	シークワサーの木でおはし作り
第3回	伊是名教子	沖縄の植物(クロトン)で押し花アート
第4回	坂元蘭・金城辰海(沖縄県立芸術大学大学院生)	ボク・わたしの山羊
第5回	山城信吾・吉濱愛(城紅型染工房)	干支紅型でお正月の仕度
第6回	伊江隆人	書画に遊ぶ
第7回	若山大地・若山恵里(スタジオ de-jin)	石獅子 守り神づくり



●第1回 cool GreenU-ji ウージ染め色さし体験



●第2回 シークワサーの木でおはし作り





●第3回 沖縄の植物（クロトン）で押し花アート



●第4回 ボク・わたしの山羊



●第5回 干支紅型でお正月の支度



●第6回 書画に遊ぶ



●第7回 石獅子 守り神づくり

夏休みこどもフェスタ

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタが NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ との共催で7月28日(土)・29日(日)の2日間実施された。今年度より沖縄県立芸術大学の学生を講師として招いた。未就学児童から中学生まで幅広い層の参加があり、モノづくりを楽しむ様子が見られた。各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的とした。

日程	午前		午後
7/28 (土)	9:30 ~ 12:00	9:00~12:00	13:00~16:00
	(1)おばけ!妖怪!大集合 講師:植田瑞生(教育普及) 場所:エントランス	(2)写生大会 講師:沖縄県美術家連盟 場所:当館周辺 (雨天時は中止)	(3)身近な人の似顔絵を描こう 講師:又吉浩、仲本賢 沖縄県立芸術大学学生 場所:こどもアトリエ 県民アトリエ ★happ 事業
7/29 (日)	9:00~12:00	13:00~16:00	
	(4)宇宙モビル大作戦 講師:吉田俊景 場所:こどもアトリエ、県民アトリエ	(5)墨で自分の龍を描こう 講師:仁添まりな、仲地華 (沖縄県立芸術大学大学院生) 場所:こどもアトリエ、県民アトリエ	

美術館 **OkimU**
夏休みこどもフェスタ! 2018

いつもは静かな美術館でアーティストや沖縄県立芸術大学の教授や学生が、おもいっきりアートを楽しむワークショップを開催します。

7月28日

- 1 おばけ!妖怪!大集合**
みんなが大好き!おばけ!や妖怪!を美術教室で楽しもう!
9:30~12:00
講師:植田瑞生
会場:エントランス
料金:200円
- 2 写生大会**
外出して絵を描こう!身近なもののモデルに大集合!絵の先生からアドバイスも受けよう!
9:00~12:00(集合:8:45)
2歳児以上(雨天時中止)
沖縄県美術家連盟のみ参加
2歳児
100円
- 3 身近な人の似顔絵を描こう!**
家族や友達のお顔を参考に似顔絵を描いてみよう。先生が筆先のヒントを教えてください!
10:00~16:00
講師:又吉浩、仲本賢
沖縄県立芸術大学学生のみ参加
15歳以上(10名)
100円

7月29日

- 4 宇宙モビル大作戦**
宇宙にどんな星がある?宇宙人はいれるのかな?宇宙船を作ろう!
8:00~12:00
会場:こどもアトリエ、県民アトリエ
講師:吉田俊景
10歳以上
150円
- 5 墨で自分の龍を描こう**
大勢のお墨に目を磨いて描いてみよう!
13:00~16:00
会場:こどもアトリエ、県民アトリエ
講師:仁添まりな、仲地華
10歳以上
300円

募集期間 平成30年7月7日~11日
申込方法 会場申込、お電話申込を要し、お電話申込は必ずお電話にてお申し込みください。
参加希望教室 1階 101号室
申し込み 1階 101号室
お電話 098-941-2392
お電話受付時間 10:00~16:00(土・日・休)



●写生大会

夏休み子どもフェスタ



●身近な人の似顔絵を描こう！



●宇宙モビル大作戦



●墨で自分の龍を描こう



●おばけ！妖怪！大作戦



移動展 in 伊平屋島 アウトリーチ

出前授業（マイ箸作り）（案）
野南小中美術・図工科

- ねらい
 - 美術・図工に關して専門家から直接指導していただける体験の場とする。
 - お箸作りを通して、食育・心豊かな食卓へとつなげていく機会とする。
- 日 時：平成31年1月16日（木）9：25～12：05
※9：15より10分間は中学生にて準備をします。（前日放課後 事前準備、2～4校時：美術・図工で3時間カウント）
- 会 場：体育館
- 参加者：全児童・生徒 職員（有志）

開会式	閉会式
はじめのことば （司会）	はじめのことば （司会）
講師紹介（ ）	感想発表
諸注意（司会）	講評（講師）
終わりのことば （司会）	終わりのことば （司会）

入 口

電子 黒板	ホワイト ボード
1・2 4	
5・6 中学生	

1. 長テーブルに学年ごとに座る

2. 短卓職員も一緒に座る

5. マイ箸作り（別紙参照）

6. 当日の日程

時 間	所要時間	内 容	担 当	写真撮影 音楽 演奏
朝の活動～		特別自演	音楽準備（中学部）	
9：15～9：25	10分	準備（中学生にて）		
9：25～11：50	150分	マイ箸作り	全児童生徒・職員	
11：50～12：05	15分	片付け（片づけ次期給食準備へ）		

7 その他

開りの会終了後、紙芝居上映会を行います。
15：30～16：00 を予定しています。
（博物館の方が説明・上映）
※ 簡単なアンケートもあるそうなので筆記用具持参をお願いします。
※ 中学生は希望者参加とします。

美術館では伊平屋島内の野南小中学校と伊平屋中学校の2校でアウトリーチを実施した。今回は、工房うるはしの鈴木仁氏と鈴木美智子氏を講師としてお招きし、シークワサーの剪定木を箸木地とした「マイ箸作り体験」を実施した。

見過ごしがちな地元の材料の良さや日常の大切さを改めて考えるきっかけになって欲しいと企画した。制作終了後、お弁当の日（伊平屋中）・給食（野南小中学校）につなげ、講師から食育の講話もして頂いた。



●伊平屋中学校 お弁当の日



●野南小中学校 お箸作り完成



「私たちの学校へ沖縄の名画を贈ろう！キャンペーン」への協力

沖縄明治乳業株式会社が取り組む「私たちの学校へ世界の名画・沖縄の名画を贈ろう！キャンペーン」において、高精細レプリカ作成のために美術館所蔵作品の画像を無償で提供する協力を平成 26 年度より行っている。明治乳業の教育支援活動は、小学校への教育、学校教材の充実化、沖縄文化芸術の普及伝承につながるなどの多方面へ大きく影響を与えるものとして沖縄県立博物館・美術館が協力してきた。5年目となる今年度は、昨年新規に稲嶺成祚作《太陽のある家族》を加えた 11 作品の画像提供を行い、9 校より 9 作品の応募があった。
(平成 31 年 2 月 28 日現在)



●作品の検品を行う（大嶺政寛「八重山風景」）



●検品後に日付と館名を署名する

学校名	応募作品名	作家名	号数
那覇市立安謝小学校	八重山風景	大嶺政寛	20
那覇市立石嶺小学校	八重山風景	大嶺政寛	20
沖縄市立越來小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚	6
浦添市立仲西小学校	八重山風景	大嶺政寛	6
浦添市立浦添小学校	希望	久場とよ	20
那覇市立泊小学校	八重山風景	大嶺政寛	6
那覇市立高良小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚	6
那覇市立上田小学校	八重山風景	大嶺政寛	20
那覇市立長田小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚	6



「県内の名画」大謝名小に
沖縄明治乳業がレプリカ

県内の小・中学校などに絵画のレプリカを贈る取り組みを続けている沖縄明治乳業は3日、那覇市の県立博物館・美術館で贈呈式を開き、今回のキャンペーンに応募があった宜野湾市立大謝名小に、県内の画家の作品3点を贈呈した。
同社は、子どもたちに名画を通じて豊かな心を育む環境をつくらうと、1993年からキャンペ

沖縄の作家が描いた絵画を受け取る大謝名小の児童ら＝3日、那覇市の県立博物館・美術館

ーンを実施。今までに県内小学校や特別支援学校に延べ883校、計1288点の絵画のレプリカを贈っている。

大謝名小6年の又吉七海さん(12)は「牛乳をたくさん飲んでマークを12枚集めた。絵はみんなと学校で鑑賞したい」と喜んだ。

●2017.2.5 美術館贈呈



大和コレクションⅧ

(会期：平成30年2月23日(火)～平成30年6月24日(日))

「大和コレクション」は、日本有数の現代美術コレクター・佐藤辰美氏から当館に寄託（一定の期間借用）された作品群。その内容は、ゲルハルト・リヒターなど諸外国の作家や、村上隆、照屋勇賢など世界的に評価の高い国内の現代美術作家による作品を含み、平面・立体・写真・陶芸など多岐にわたっている。

展示8回目となる今年度も、国内外の作家の作品を選択し、展示を実施。また、ギャラリートークにおいては、現代美術に造詣の深い美術批評家・清水穰氏をお招きし、展示作品に対する専門的な見地からの鑑賞を来館者と共有する機会を設けた。また、ギャラリーでの鑑賞の前に、大和コレクションが当館に寄託された経緯について、コレクターご本人に対して実施したメールインタビューを交えて紹介し、当館で現代美術を紹介する意義についても、来館者と共有する機会となった。現代美術に馴染みのない来館者にとっても、コレクターの立場から見た現代美術を紹介することで、普段とは異なった鑑賞の視点を持つことができるように工夫した。 (亀海史明)

【展示作品作家】

1. アンドレアス・スロミンスキー 《Untitled》
2. アントン・ヘニング 《Quadrinom No.4》
3. フェデリコ・エレロ 《landscape》
4. 照屋 勇賢 《For the World to Come》
5. 森 千裕 《ヘクトパスカル (台風の目)》
6. 竹岡 雄二 《浮いた台座》
7. 鯉江 良二 《泥 ing》

□ギャラリートーク

【日 時】平成30年5月19日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術講座室

【参加者】31人

【講 師】清水穰(同志社大学グローバル地域文化学部教授)

【内 容】展示している作品について、専門家の見地や美術品コレクターから見た視点を紹介し、作家の魅力や作品の面白さを参加者と共有した。展覧会担当学芸員によるコレクションの概要解説も同時に行った。

大和 コレクションⅧ ギャラリートーク

コレクションギャラリー1・2・ホワイエでは、「大和コレクションⅧ」として、当館に寄託された日本有数の現代アートのコレクションを展示しています。今回の企画では、美術評論家の清水穰氏をお招きし、会場を回りながら作品の魅力について存分に語っていただきます。また、大和コレクションの概要についても紹介します。いつともは違う現代アートの鑑賞体験をぜひお楽しみください。



アンドレアス・スロミンスキー《untitled》(1996-1997年)
© Andreas Slominski

**日時：2018 5/19 (土)
14:00-15:30**

会場：美術館講座室・コレクションギャラリー 1・2

**講師：清水 穰(しみず みのる)氏
(同志社大学グローバル地域文化学部教授)**



美術評論家、専攻はドイツを中心とする現代美術・写真、現代音楽で、定期的に『BT 美術手帖』や写真集、展覧会図録に批評を書いている。主な著書に『白と黒で：写真と・・・』『写真と日々』『日々は写真』『ブルラモン』(すべて現代思潮新社)など。

観覧時間：9:00～18:00【金・土は20:00まで 入館は開館30分前まで】休館日/月曜日(祝日の場合は翌平日振替)
コレクション展/一般：350円(280円)高校・大学生：280円(170円)小・中学生：150円(80円)県内/無料()内の料金は団体料金
※団体は以上の半額(小学生未満は無料)※貸出料(1名1日)別途()※貸出料(1名1日)別途()※貸出料(1名1日)別途()
主催：おおいとせ 学芸員立野 高橋 美術館
〒900-0005 津島市立野町 1-1-1 1F TEL: 091-8200 http://ohm.jp



儀間比呂志の世界展

(会期：平成30年7月13日(金)～平成31年1月6日(日))

本展覧会は、2017年4月11日に没した、儀間比呂志の版画と絵画とを展示する追悼展である。儀間比呂志は、沖縄県那覇市生まれの美術家・絵本作家である。儀間の作品には、一貫して郷土・沖縄へのたゆまない愛が流れており、その沖縄を踏みにじった、戦争の不条理さを赤裸々に表現している。当館が所蔵する儀間比呂志の戦争版画シリーズは『戦がやってきた』(1979年)、『沖縄の悲哭』(1982年)、『りゅう子の白い旗』(1985年)、『沖縄戦 朝鮮人軍夫と従軍慰安婦』(1995年)らの絵本に収められている。戦後、儀間が大阪へ定住しながらも、郷土の戦後復興に視線を向けていたことが偲ばれる。絵本作家として著名な儀間の、画家としての仕事と、そこから派生したプロレタリアアートとしての版画、絵本の仕事を通して、その世界観を感じることでできる初の追悼展となった。

(豊見山愛)

* コレクションギャラリー1 儀間比呂志・版画のヴァリエーション

* コレクションギャラリー2 儀間比呂志の初期油絵と絵本の世界



□ オープニング+ギャラリートーク

【日 時】平成30年7月13日(金) 10:30~11:00

【会 場】コレクションギャラリー・ホワイエ

【参加者】38人

【講 師】豊見山愛(展覧会担当学芸員)



□ ギャラリートーク+学芸員講座

【日 時】平成30年8月4日(土) 14:00~15:30

【会 場】美術館講座室/コレクションギャラリー

【参加者】32人

【講 師】岡村幸宣(原爆の図丸木美術館学芸員)

豊見山愛(展覧会担当学芸員)

【内 容】「南洋から沖縄へー儀間比呂志と丸木俊の交差するまなざし」と題して原爆の図丸木美術館学芸員の岡村幸宣氏に、儀間比呂志と同じ時期に南洋群島へ渡った赤松俊子(丸木俊)についてお話いただいた。



□ワークショップ（読み聞かせ）

【日 時】平成 30 年 8 月 18 日（土）14:00～15:30

【会 場】コレクションギャラリー

【参加者】32 人

【講 師】平良京子（沖縄子どもの本研究会会長）

【内 容】読み聞かせ

『ふなひき太良』儀間比呂志（文・絵）

『エイサーガーエー』儀間比呂志（文・絵）



□シンポジウム

【日 時】平成 30 年 9 月 22 日（土）14:00～17:00

【会 場】博物館・美術館講堂

【参加者】81 人

【講 師】新川明（ジャーナリスト）

川満信一（詩人）

三木健（ジャーナリスト）

佐喜眞道夫（佐喜眞美術館館長）

【内 容】「儀間比呂志について」

「儀間比呂志をめぐる沖縄の表現」

2017 年に 94 歳で他界した、多作で多彩な儀間比呂志の 1950 年代から 2000 年代までの作品を紹介した。儀間と親交の深い 4 名の講師をお招きして、儀間の沖縄への思いについて、作品の画像や生前の写真を見ながら表現の魅力について探っていった。



□美術講座

【日 時】平成 30 年 12 月 8 日（土）14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】28 人

【講 師】齋木喜美子（関西学院大学教育学部教授）

【内 容】「儀間比呂志・絵本の魅力」

儀間比呂志創作の絵本が伝える沖縄の伝承から、今を生きる私たちが何を受け取ることができるのかを、絵本作家としての儀間を長年研究されている、齋木喜美子氏にご講演いただき、その考察を深めた。



伊志嶺隆と平敷兼七展

(会期：平成31年1月12日(土)～平成31年6月23日(日))

伊志嶺隆(1945-93)と平敷兼七(1948-2009)は、同年代に生まれた沖縄の写真家である。ふたりは沖縄の日本への復帰という激動の時代に20代を過ごし、その後も沖縄をどのように撮るべきかを模索し続け、独自の表現を切り開いていった作家といえる。本展では、当館所蔵の作品とともに関連資料を紹介し、ふたりが独自の表現を見いだすまでに至った足跡をたどった。

(亀海史明)

□ギャラリートーク

【日 時】平成31年2月23日(土) 14:00～15:30

【会 場】企画展示室/コレクションギャラリー

【参加者】34人

【講 師】中嶋興(映像作家)

石川竜一(写真家)

【内 容】平敷兼七について関わりの深いゲストをお招きし、東京総合写真専門学校時代に関わりのあった映像作家・中嶋興氏には、東京時代の平敷の人物像について伺い、また、現代の写真家・石川竜一氏には平敷の写真の撮り方について、現代の写真家からはどのように見えるのかを伺いながら、平敷の作家像に迫った。

□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】平成31年3月9日(月) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】26人

【講 師】亀海史明(当館学芸員)

【内 容】戦後間もない頃に生まれた沖縄の写真家・伊志嶺隆と平敷兼七は、ほぼ同じ頃に東京と沖縄を行き来し、復帰後は沖縄で写真を撮り続けた。ふたりはそれぞれが独自の作風を確立している。そのふたりを取り上げた展覧会ができるまでのプロセスについて、担当学芸員による解説とともに紹介した。



沖縄美術の流れ

(会期：前期＊平成30年2月23日(金)～平成30年6月24日(日))
 (会期：後期＊平成30年7月13日(金)～平成31年6月23日(日))

沖縄にはその風土や歴史から生まれてきた独特な文化があり、美術も時代や置かれた状況に大きく影響されながら培われてきた。また、沖縄はいつの時代もその置かれた立場や状況に大きく影響されて生きてきた。沖縄戦から本土復帰、復帰後から現代までのさまざまな時代の変容は、沖縄の芸術家とその作品にどのような影響を与えたのだろうか。沖縄・日本そして海外で生み出された象徴的な作品を、戦前、戦後、復帰後、現代に分けて紹介した。
 (梶原正史・玉那覇英人)

- 第1章 戦前の沖縄美術(～1945年)
- 第2章 戦後復興期の美術(1945～1972)
- 第3章 復帰からアイデンティティーの希求(1972～)
- 第4章 県外・海外で活躍する沖縄のアーティスト(1995～)



□ギャラリートーク

【日 時】平成30年4月14日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】54人

【講 師】稲嶺成祚(画家)

【内 容】元琉球大学教授の稲嶺成祚氏による作品解説とご自身の今までの作品や制作活動、作品の変遷についてお話し頂いた。また、「沖縄美術の流れ」を稲嶺氏の視点から解説して頂き、展示作品について鑑賞者の理解を深めた。



□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】平成30年6月2日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】17人

【講 師】梶原正史(当館学芸員)

【内 容】「美術品の保存について」

当館で所蔵している作品の保存・管理の方法やIPMについて説明し、後半は修復室を見学しながら絵画作品の修復、保存の仕方について解説した。



□アーティストトーク

【日 時】平成 30 年 9 月 1 日（土）14:00～15:30

【会 場】美術館講座室／コレクションギャラリー 3

【参加者】18 人

【講 師】与那覇大智（画家）

【内 容】「沖縄美術の流れ」・「与那覇大智絵画の変遷」

展覧会で展示されている自身の作品を、制作当時の状況から最近の取り組みについて、ポートフォリオや写真資料で振り返りながら、作家本人の考えを語った。そしてギャラリーでは、沖縄美術の流れをめぐるトークを行った。



□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】平成 30 年 11 月 17 日（土）14:00～15:30

【会 場】美術館講座室／コレクションギャラリー 3

【参加者】26 人

【講 師】西村貞雄（彫刻家）

【内 容】「沖縄における現代彫刻の変遷」

戦後から現在まで沖縄の彫刻界を牽引した作家や、同時代に活躍した彫刻家の作品を、琉球大学名誉教授であり彫刻家の西村貞雄氏と当館学芸員が画像を交えながら対談形式で紹介した。



□ギャラリートーク

【日 時】平成 31 年 3 月 2 日（土）14:00～15:30

【会 場】美術館講座室／コレクションギャラリー 3

【参加者】51 人

【講 師】西村貞雄（彫刻家）

【内 容】西村貞雄氏をお招きし、沖縄彫刻界の歴史とともに歩んだ自身の作家活動の変遷のほか、「二科展」会員としての精力的な活動、首里城の復元、モニュメント制作、沖縄の著名人の肖像彫刻などを制作してきたことについても伺うことができた。



吉増剛造展

(会期：平成30年4月27日(金)～平成30年6月24日(日))

吉増剛造は、1960年代から現在に至るまで、日本の現代詩をリードしてきた。その活動は文学の領域に留まらず、写真や映像、造形作品など多岐にわたり、私たちを魅了している。常に言葉の限界を押し広げてきた吉増の詩は、日本各地、世界各国をめぐり、古今東西、有名無名の人々や書物と深く交感を重ねる中で綴られてきた。

本展では、半世紀以上に及ぶ活動の中から、各時代の代表的な詩集を柱とし、詩や写真をはじめとする彼の作品群に加え、川端康成、萩原朔太郎、赤瀬川原平、ダイアン・アーバスなど関連する表現者達の作品や資料を展示した。
(玉那覇英人)



□オープニング+アーティストトーク

【日 時】平成30年4月27日(金) 10:00～12:00

【会 場】エントランス/企画展示室

【参加者】91人

吉増剛造(詩人)

篠原誠司(足利市立美術館学芸員)

富士千恵子(読売新聞社東京本社取締役事業局長)



□対 談

【日 時】平成30年4月29日(日) 14:00～17:00

【会 場】博物館・美術館 講堂

【参加者】81人

【講 師】吉増剛造(現代詩人)

鶴岡真弓(多摩美術大学教授)

篠原誠司(足利市立美術館学芸員)

【内 容】「螺旋から地底へ」

吉増剛造の詩的活動を通し、吉増の表現を巡りながら過去現在へといたる世界中の詩人や画家、また文化について言及し、まさに芸術そのものの真髄を語る対話は、美術、芸術に新たなまなざしを投げかけた。



□ギャラリートーク

【日 時】平成 30 年 5 月 27 日（日）14:00~15:30

【会 場】美術館講座室／企画展示室

【参加者】21 人

【講 師】篠原誠司（足利市立美術館学芸員）

【内 容】「吉増剛造の世界」

詩人・吉増剛造をめぐるひと時の「旅」を、1980年代より、30 年以上にわたって吉増氏の作品に触れてきた展覧会キュレーターの篠原誠司氏が案内した。



□関連催事 - アウトリーチ（出前特別授業）

憧れの人と夢の授業・作家が教室へオーサービジット

2018（朝日新聞社主催・美術館協力）

【日 時】平成 30 年 6 月 8 日（金）13:00~16:00

【対 応】那覇市立真嘉比小学校（重信知雅子校長）

【会 場】那覇市立真嘉比小学校 3 年 1 組（木村純子先生）

【参加者】45 人

【講 師】吉増剛造（詩人）

【関係者】赤田康和（朝日新聞社読書推進事務局長）

篠原誠司（足利市立美術館学芸員）

富原圭子（当館教育普及担当学芸員）

【内 容】「言葉に出会おう」

*ことばの面白さを見つけよう

*新しいことばをつくってみよう



□ワークショップ

【日 時】平成 30 年 6 月 10 日（日）13:00~18:00

【会 場】博物館講座室

【参加者】83 人

【講 師】吉増剛造（詩人）／大友良英（音楽家）

有馬恵子（企画協力）

【内 容】①ワークショップ・トークセッション

「"K-oto-ba（こ・と・ば）"コレクティブ・オーケストラ」を実施する。参加者とともに、吉増剛造によるコトバの世界と大友良英によるオトの世界を「コト・オト・バ」として融合。



— 沖縄の美術シリーズVII 宮城健盛展—
— 人と美術をつなぐもの—

(会期：平成30年9月12日(水)～平成30年10月28日(日))

宮城健盛(1915～2001)はユーモア溢れる親しみやすい人物である一方、指導者としての功績はもとより沖縄画壇に尽力した人物だった。独自の創作活動に対しては柔軟で真摯に挑み続け、型にはまらず、画風が変化し続けた、まれな画家である。

この宮城独特の作風はどこから来たのか。宮城の変遷をたどりながら、その全貌と絵画活動を紹介した。(梶原正史)

- *プロローグ 生い立ちから東京美術学校入学、帰沖するまで
- *第1章 変容するスタイル
- *第2章 美術教育者として
- *第3章 繋いできたもの

□オープニング+ギャラリートーク

【日 時】平成30年9月12日(水) 9:30～10:30

【会 場】エントランス/企画展示室

【参加者】50人

- 宮城篤正(元沖縄県立芸術大学学長)
- 富秋道子(宮城健盛の長女)
- 砂川恵光(沖縄旺玄会会長)

【内 容】担当学芸員が本展覧会に向けて行った調査でのエピソードや作家の生い立ち、作風について解説した。

□シンポジウム+キュレータートーク

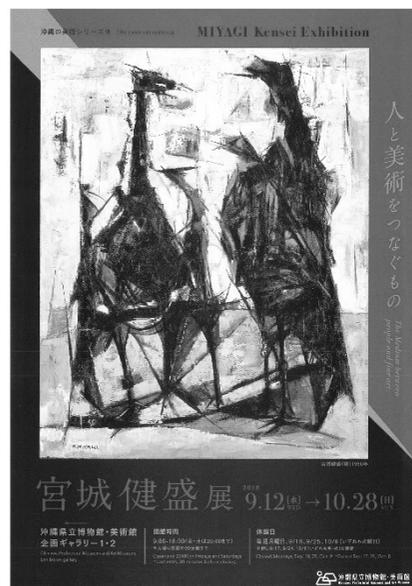
【日 時】平成30年10月13日(土) 14:00～17:00

【会 場】美術講座室/企画展示室

【参加者】48人

- 【講 師】稲嶺成祚(画家)
- 喜久村徳男(画家)
- 梶原正史(当館学芸員)

【内 容】稲嶺成祚氏が録音した生前の宮城健盛の音声を中心に、創斗会や沖縄旺玄会での芸術家としての活動に迫った。キュレータートークでは、変化し続けた健盛の独特の作風について、展覧会担当学芸員が解説した。



平成 30 年度美術館事業統計報告

教育普及事業

※敬称略

1. シンポジウム・講演会・上映会

回	月 日	曜	シンポジウム・講演会	参加者
1	4月29日	日	涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展関連催事 対談「螺旋から地底へ」 講師：吉増剛造（現代詩人） 鶴岡真弓（多摩美術大学教授・芸術人類学研究所所長） 進行：篠原誠司（足利市立美術館学芸員）	81
3	9月22日	土	「儀間比呂志の世界」関連催事 追悼シンポジウム 講師：新川明（ジャーナリスト）、三木健（ジャーナリスト） 川満信一（詩人）、佐喜眞道夫（佐喜眞美術館館長） 進行：豊見山愛（展覧会担当学芸員）	81
4	10月13日	土	「宮城健盛展」関連催事 記念シンポジウム・キュレータートーク 講師：稲嶺成祚（画家）、喜久村徳男（画家） 進行：梶原正史（展覧会担当学芸員）	48
5	10月26日	金	おきみゅーシネマラボ 映画「沖縄列島」上映 講師：真喜屋力（沖縄アーカイブ研究所） 進行：亀海史明（展覧会担当学芸員）	58

2. キュレータートーク・学芸員講座（展示会担当学芸員による作品・作家解説）

回	月 日	曜	展示会名	担 当	参加者
1	6月2日	土	「沖縄美術の流れ」キュレータートーク+学芸員講座	梶原正史	17
2	7月21日	土	「儀間比呂志の世界展」について	豊見山愛	34
3	11月17日	土	「沖縄美術の流れ」キュレータートーク+学芸員講座 「沖縄における現代彫刻の変遷」 講師：西村貞雄（彫刻家）	玉那覇英人	26
4	3月9日	土	「伊志嶺隆と平敷兼七」 キュレータートーク+学芸員講座【開催予定】	亀海史明	26

3. 教員講座（事例発表・実技研修）

回	月 日	曜	内 容	担 当	参加者
1	6月16日	土	美術科授業づくり～導入のヒント 美術館学校支援プログラム 新学習指導要領移行期の授業づくり	富原圭子 上原進	15
2	8月9日	木	図画工作の基本実技講座	沖造形小学部会	20
3	8月21日	火	画材の基礎知識（午前：幼稚園／保育園／こども園） （午後：小学校）	大塚義孝 （ぺんてる株）	25 25
4	12月22日	土	新学習指導要領移行期のポイント 学校行事とつなぐ授業の作り方 中学校支援プログラム「ニシムイ」	上原進 田仲浩美 富原圭子	15

4. アーティスト（ギャラリー）トーク（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

回	月 日	曜	展覧会名	参加者
1	4月14日	土	「沖縄美術の流れ」ギャラリートーク 講師：稲嶺成祚氏（画家）	54
2	4月27日	金	「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」 オープニング+アーティストトーク 講師：吉増剛造（現代詩人）	91

3	5月19日	土	「大和コレクション」ギャラリートーク 講師：清水穂（同志社大学グローバル地域文化学部教授）	31
4	5月27日	日	「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」関連催事ギャラリートーク 講師：篠原誠司（足利市立美術館 学芸員）	21
5	7月13日	金	「儀間比呂志の世界」オープニング+ギャラリートーク 講師：豊見山愛（展覧会担当学芸員）	38
6	8月4日	土	「儀間比呂志の世界」関連催事 「南洋から沖縄へ-儀間比呂志と丸木俊の交錯するまなざし」 講師：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館） 豊見山 愛（展覧会担当学芸員）	32
7	8月18日	土	「儀間比呂志の世界」関連催事「絵本読み聞かせ」 講師：平良京子（沖縄子どもの本研究会 会長）	32
8	9月1日	土	「沖縄美術の流れ」関連催事 アーティストトーク 講師：与那覇大智（画家）	18
9	9月12日	水	「宮城健盛展」オープニング+ギャラリートーク 講師：梶原正史（展示担当学芸員）	50
10	12月8日	土	「儀間比呂志の世界」関連催事 美術講座「儀間比呂志・絵本の魅力」 講師：齋木喜美子（関西学院大学教育学部教授）	28
11	2月23日	土	「伊志嶺隆と平敷兼七」ギャラリートーク 講師：中嶋興（映像作家）、石川竜一（写真家）	34
12	3月2日	土	「沖縄美術の流れ」ギャラリートーク 沖縄における彫刻-西村貞雄の仕事- 講師：西村貞雄（彫刻家）	51

5. ボランティア養成講座

（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00）

対象：登録ボランティア員

回	月日	曜	講義内容	参加
1	4月25日	水	ボランティア体験会	13
2	5月9日	水	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会	17
3	5月29日	火	足利市立美術館の篠原氏による「吉増剛造展」の解説	16
4	6月13日	水	アートカードを使った対話型鑑賞の勉強会	19
5	7月11日	水	壺屋焼もの博物館 見学（台風のため中止）	-
6	7月18日	水	儀間比呂志の世界展、沖縄美術の流れの展示解説	14
7	8月15日	水	外部講師 篠原誠司氏による講座「美術館鑑賞」	21
8	9月5日	水	ボランティア証交付式、勉強会	14
9	9月19日	水	宮城健盛展の展示解説と招聘事業に向けた実践練習	13
10	11月14日	水	車椅子での鑑賞体験会	5

6. アートコンクール

.....500人（535作品）応募

実施計画表

展示期間 10/30～11/11

回	期日	内容	回	期日	内容
1	6月4日	アートコンクール提案	9	10月21日	表彰式案内郵送
2	6月21日	実施要項起案	10	10月26日	賞状・立て看作成
3	6月25日	チラシ・応募用紙検討	11	10月29日	展示作業・出欠確認

4	7月14日	小中高応募チラシ郵送	12	11月3日	表彰式(13:30~14:00)
5	10月16日	作品〆切	13	11月12日	展示作品撤収
6	10月17日	審査	14	12月7日	佳作者賞状郵送
7	10月18日	表彰式打合せ・要項起案	15	〃	各学校、個人に作品返却
8	10月20日	上位入賞者 HP 発表			

7. ワークショップ

- (1) 「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」関連催事83人参加
 ワークショップ“k-oto-ba”(こ・と・ば)コレクティブ・オーケストラ
 ① 日 時：平成30年6月10日(日)13:00~18:00
 ② 内 容：言葉と音を融合させた作品作りを作家と共に行う
 ③ 講 師：吉増剛造(現代詩人)、大友良英(ミュージシャン)、有馬恵子(企画協力)
 ④ 対 象：小学生3年から18歳ぐらいまで
 ⑤ 会 場：博物館講座室
- (2) OKINAWA ワークショップ「ウージ染め色さし体験」16人参加
 ① 日 時：平成30年5月19日(土)14:00~15:30
 ② 内 容：ウージの葉で染めた巾着やコースター型染めを体験
 ③ 講 師：熊谷雅江、宮平ヒロ子(ウージ染め協同組合)
 ④ 対 象：未就学から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (3) OKINAWA ワークショップ「シークワサーの木でおはし作り」29人参加
 ① 日 時：平成30年7月15日(土)【1回目】10:00~12:00 【2回目】13:30~15:30
 ② 内 容：大宜味のシークワサーの木を使って、削り出しの箸を作る
 ③ 講 師：鈴木仁、鈴木美智子(工房うるはし)
 ④ 対 象：3歳から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (4) 美術館夏休み こどもフェスタ①「おばけ!妖怪!大集合」68人参加
 ① 日 時：平成30年7月28日(土)9:30~12:00
 ② 内 容：おばけ、妖怪をテーマにオリジナルの妖怪を描き、エントランスの柱に展示
 ③ 講 師：植田瑞生(当館教育普及担当)
 ④ 対 象：未就学から一般
 ⑤ 会 場：エントランス
- (5) 美術館夏休み こどもフェスタ②「写生大会」20人参加
 ① 日 時：平成30年7月28日(土)9:00~12:00
 ② 内 容：博物館屋外展示周辺の風景を描く水彩画に挑戦
 ③ 講 師：沖縄県美術家連盟会員
 ④ 対 象：小学校1年から中学校3年
 ⑤ 会 場：博物館屋外展示スペース
- (6) 美術館夏休み こどもフェスタ③「身近な人の似顔絵を描こう!」23人参加
 ① 日 時：平成30年7月28日(土)13:00~16:00
 ② 内 容：似顔絵の描き方のコツを教えてもらい家族や友人と一緒に似顔絵を描く
 ③ 講 師：仲本賢、又吉浩(沖縄県立芸術大学) 沖縄県立芸術大学学生
 ④ 対 象：小学校1年から中学校3年
 ⑥ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (7) 美術館夏休み こどもフェスタ④「宇宙モビール大作戦」14人参加
 ① 日 時：平成30年7月29日(日)9:00~12:00
 ② 内 容：宇宙をテーマに自由な発想でオリジナルモビールを制作
 ③ 講 師：吉田俊景(彫刻家)
 ④ 対 象：小学校3年から中学校3年
 ⑥ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (8) 美術館夏休み こどもフェスタ⑤「墨で自分の龍を描こう」13人参加

- ① 日 時：平成 30 年 7 月 29 日（日）13:00～16:00
- ② 内 容：大学院生が講師を務め、参加者それぞれが想像する龍を墨で描く
- ③ 講 師：仁添まりな、仲地 華（沖縄県立芸術大学 大学院生）
- ④ 対 象：小学校 3 年から中学校 3 年
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(9) OKINAWA ワークショップ「沖縄の植物（クロトン）で押し花アート」……………18 人参加

- ① 日 時：平成 30 年 8 月 18 日（土）10:00～12:00
- ② 内 容：身近な植物「クロトン」の魅力を押し花で表現する
- ③ 講 師：伊是名教子
- ④ 対 象：小学校 1 年から一般
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(10) OKINAWA ワークショップ「ボク、わたしの山羊」……………11 人参加

- ① 日 時：平成 30 年 10 月 20 日（土）9:30～12:00
- ② 内 容：山羊の生態や特徴を学び、張り子の山羊に模様や絵を描く
- ③ 講 師：坂元蘭、金城辰海（沖縄県立芸術大学 大学院生）
- ④ 対 象：未就学から一般
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(11) OKINAWA ワークショップ「干支紅型でお正月の仕度」……………40 人参加

- ① 日 時：平成 30 年 12 月 15 日（土）【一回目】10:00～12:00【二回目】14:00～16:00
- ② 内 容：紅型の歴史を学び、次の干支「亥」の紅型に挑戦する
- ③ 講 師：山城信吾、吉濱愛（城紅型染工房）
- ④ 対 象：5 才から一般
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(12) OKINAWA ワークショップ特別編「書画に遊ぶ」……………20 人参加

- ① 日 時：平成 30 年 1 月 26 日（土）13:30～16:30
- ② 内 容：アダンの気根を使った筆を作り体験と、書き初めを行う
- ③ 講 師：伊江隆人（美術家）
- ④ 対 象：5 才から一般
- ⑤ 会 場：博物館実習室

(13) OKINAWA ワークショップ「石獅子 守り神づくり」…………… 10 人参加

- ① 日 時：平成 30 年 2 月 16 日（土）【一回目】9:30～12:30【二回目】14:00～17:00
- ② 内 容：琉球石灰岩をの特徴を楽しみながら石彫に挑戦し、石獅子を作る
- ③ 講 師：若山大地、若山恵里（スタジオ de-jin）
- ④ 対 象：小学校 1 年から一般
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

8. 美術館ミュージアムツアー

- ①内 容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを教育普及担当学芸員が案内する
- ②定 員：12 名
- ③時 間：10:30～12:00
- ④内 容：*トラックヤード*一時保管庫*収蔵庫*工作室*修復室*展示室作品鑑賞

回	月 日	参加人数	回	月 日	参加人数
1	5 月 19 日	12	4	11 月 3 日	22
2	7 月 21 日	台風のため中止	5	1 月 26 日	8
3	9 月 15 日	9			

9. 博物館・美術館連携事業

慰霊の日特別企画 「平和ってなに??」美術館えほん読み聞かせ……………51 人参加

- ①日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）14:00～15:00
- ②内 容：絵本「マブニのアンマー」「へいわってすてきだね」の読み聞かせ
- ③講 師：山川喜美子（菜の花文庫 主宰）
- ④場 所：1 階エントランス

10. 職場体験18人参加

キャリア教育の具体的理解として、生徒が職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習。館内施設を見学し、博物館・美術館交互に業務体験。

- ① 対象：本島域内中学校・高等学校
- ② 方法：各学校の依頼受け入れ
- ③ 場所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室
- ④ 内容：施設見学、美術館班資料整理、各業務体験

回	月日	曜日	学校名	生徒数
1	5月22日	火	那覇市立古蔵中学校(1年)	4
2	6月14日	木	浦添市立神森中学校(2年)	3
3	9月13日	木	沖縄県立沖縄工業高校(2年)	4
4	11月21日	水	那覇市立那覇中学校(1年)	3
5	1月23日	水	那覇市立金城中学校(1年)	4
6	3月1日	金	琉球大学 留学生(2年)	1

11. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」.....517人参加

児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う

- ① 対象：本島域内小中学校、特別支援学校等
- ② 方法：公募により学校を選定
- ③ 場所：コレクション展示室
- ④ 内容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月日	曜日	学校名	生徒数
1	9月27日	木	西原町立西原東小学校(4年)	76
2	10月10日	水	沖縄県立島尻特別支援学校 中学部	20
3	10月16日	火	八重瀬町立新城小学校(5・6年)	55
4	10月18日	木	南城市立百名小学校(3・4年)	63
5	11月14日	水	西原町立西原中学校 特別支援学級	9
6	12月18日	火	沖縄県立森川特別支援学校	26
7	12月19日	水	本部町立瀬底小学校(5・6年)	19
8	12月20日	木	うるま市立平敷屋小学校(5年)	40
9	12月21日	金	うるま市立宮森小学校(6年)	58
10	1月24日	木	国頭村立国頭中学校(1年)	52
11	2月15日	金	読谷村立古堅小学校(6年)	99

12. 出前授業17校

*美術館収蔵作品ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー・キャリア教育

回	月日	学校名	回	月日	学校名
1	9月10日	西原町立西原東小学校	10	11月29日	うるま市立南原小学校
2	9月20日	県立泡瀬特別支援学校	11	12月5日	森川特別支援学校
3	9月26日	読谷村立古堅小学校	12	12月10日	本部町立瀬底小学校
4	9月26日	県立島尻特別支援学校	13	12月10日	うるま市立平敷屋小学校
5	10月1日	南城市立百名小学校	14	12月13日	うるま市立宮森小学校
6	10月10日	八重瀬町立新城小学校	15	1月5日	豊見城市立伊良波中学校
7	10月22日	北谷町立北玉小学校	16	1月10日	国頭村立国頭中学校
8	11月1日	西原町立西原中学校	17	1月13日	琉球大学附属中学校
9	11月9日	県立西崎特別支援学校			

*ティーチャーズキットのみの借用

1	5月1日	うるま市立宮森小学校	4	10月23日	沖縄市立比屋根小学校
2	6月4日	宮古市立下地中学校	5	11月29日	うるま市立南原小学校
3	6月23日	沖縄市立比屋根小学校	6	1月5日	沖縄市立比屋根小学校

13. 学校団体見学対応786人参加
 (鑑賞ボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム)

回	月日	曜日	学校名	内容	生徒数
1	5月2日	水	南城市立大里中学校	美術館コレクション展・博物館常設展	174
2	7月20日	金	豊見城市立豊寿大学	バックヤードツアー・学芸員鑑賞ガイド	35
3	7月27日	金	那覇市立真嘉比小学校職員研修	バックヤードツアー・学芸員鑑賞ガイド	18
4	10月2日	火	沖縄県立泡瀬特別支援学校中学部	ボランティア対応・鑑賞ツアー	6
5	10月27日	土	県立芸術大学	バックヤード・鑑賞ツアー	13
6	11月2日	金	北谷町立北玉小学校	ボランティア対応・鑑賞ツアー	100
7	11月21日	水	沖縄県立西崎特別支援学校(5・6年)	ボランティア対応・鑑賞ツアー	19
8	11月22日	木	沖縄市立室川小学校(5年)	ボランティア対応・鑑賞ツアー	40
9	12月13日	木	沖縄県立浦添工業校デザイン科	バックヤード・鑑賞ツアー	74
10	2月15日	金	沖縄市立沖縄東中学校(1年)	美術館コレクション展・美術館企画展	226
11	2月16日	土	島尻地区美術部	美術館コレクション展・美術館企画展	56
12	2月17日	日	琉球大学附属中学校美術部	美術館コレクション展・美術館企画展	16
13	2月20日	水	社会教育主事研修	バックヤード・鑑賞ツアー	9

14. 研修対応

学芸員実習

① 期間：平成30年8月6日(月)～8月17日(金)10日間(土、日を除く)

② 参加者：9名(沖縄県立芸術大6名)

③ 内容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館、学芸員業務全般

回	期日	内容
1	8月6日(月)	開講式・オリエンテーション
2	8月7日(火)	*美術館業務の考え方と実際(池原班長)
3	8月8日(水)	*教育普及事業Ⅰ・Ⅱ *教育普及演習(富原)
4	8月9日(木)	*資料保存・修復の実際Ⅰ・Ⅱ *平面の扱い(梶原)
5	8月10日(金)	*企画展示の実際Ⅰ・Ⅱ(豊見山)
6	8月13日(月)	*資料収集の概要(亀海)
7	8月14日(火)	*調査・研究の概要 *立体の取扱(玉那覇)
8	8月15日(水)	*常設展示の実際Ⅰ・Ⅱ(謝花・梶原)
9	8月16日(木)	*資料調査実習(謝花)
10	8月17日(金)	共通課題発表(ニシムイ)・閉講式

[さいごに]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人その他の何かが結び付く機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たならば幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

平成30年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2019年3月31日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-941-8200 (代表)

教育普及担当
富原圭子 (沖縄県立博物館・美術館)
渡邊愛依 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (一般財団法人沖縄美ら島財団)
植田瑞生 (一般財団法人沖縄美ら島財団)